

平成26年度 胎内市学校保健部 活動報告

部長 古川 幸子

1 研究主題

心身共に健康な児童の育成

2 研究の概要

- (1) 第1回部会 「事業計画の立案」 会場：黒川庁舎
- (2) 第2回部会 「胎内市教育委員会担当者との連絡会」
「学校保健統計資料集作成作業・研修会準備」 会場：黒川庁舎
- (3) 第3回部会 「ワークショップ形式による事例検討会」 会場：ほっとHOT・中条

3 研究の実際

○第2回部会

- 胎内市教育委員会学校教育係主任、森田陽平様をお迎えし、学校保健に関する意見交換を行った。その後、統計班と研修班に分かれ、胎内市学校保健統計資料編集作業と秋の研修会の準備を行った。

○第3回部会

- 指導者に県立高校相談員、大野英子様（元養護教諭）をお招きして、「事例の理解を深め、気持ちにより添った支援のあり方について」をテーマに研修会を実施した。部員からの事例発表を参加者がグループに分かれて検討し合い、その後、検討結果を全員で共有した。
講師の大野様からは、ご指導を頂いた後、「子どもと向き合う組織の中の養護教諭」という内容の講義をお聞きした。



4 成果と課題

(1) 成果

- 胎内市教育委員会との連絡会では、学校保健に関する意見交換会を行うことで、行政・学校間で当市が抱える学校保健に関する課題が共通理解でき、執務の効率化を図る上でとても有意義であった。また、今年度、学校保健管理業務ソフトを使い易くしていただき、歯科の治療勧告書を作成することができた。執務の効率化を図る上で、大きな前進であった。
- 「胎内市学校保健統計資料集」を例年通り発行できた。このことは児童生徒の健康課題について、行政・学校のみならず、保護者と学校が課題を共通理解することにつながった。
- ワークショップ形式による事例検討会では、各学校の状況を踏まえ、一つの事例に対して多方面からの見立てをすることができ、具体的かつ活発な意見交換を行うことができた。個々の力量を高める上で、とても有意義な研修会であった。

(2) 課題

- 心身の健康課題で悩んでいる児童生徒の課題解決にむけて、子どもや親が求める援助者を目指していくこと。また、支援を必要としている児童生徒の将来をも見据えた援助者であり続けることが必要である。しかし、学校保健の範囲ではできることに限界があるので、どのような関係機関と連携していけばよいのかを考え、地域の福祉関係者とも密接に連絡を取り合っていくことが今後の課題である。